

DIALOG(R) File 347:JAPIO
(c) 2004 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

01967638 **Image available**
TRANSDUCER DEVICE FOR CAR-MOUNTED COMMUNICATIONS EQUIPMENT

PUB. NO.: 61-181738 A]
PUBLISHED: August 14, 1986 (19860814)
INVENTOR(s): SUGIBAYASHI NOBUO
APPLICANT(s): TOYO COMMUN EQUIP CO LTD [000310] (A Japanese Company or
Corporation), JP (Japan)
APPL. NO.: 60-021537 [JP 8521537]
FILED: February 06, 1985 (19850206)
INTL CLASS: [4] B60R-011/02; B60R-022/12; H04M-001/03
JAPIO CLASS: 26.2 (TRANSPORTATION -- Motor Vehicles); 37.2 (SAFETY --
Traffic); 44.4 (COMMUNICATION -- Telephone)
JOURNAL: Section: M, Section No. 550, Vol. 11, No. 1, Pg. 121, January
06, 1987 (19870106)

ABSTRACT

PURPOSE: To make telephone conversation performable in free-handedness, by making people talkable with the microphone attached to a required part of a safety belt and the speaker attached to a headrest.

CONSTITUTION: A small-sized microphone 11 is attached to a required part of a safety belt 10 installed in a driver's seat, and this microphone 11 is connected to a communications equipment body 1 through a cable 12. And, a receiving speaker 13 is installed in and around a headrest at the driver's seat, and just like the microphone 11, it is connected to the communications equipment body 1 through a cable. Therefore, a driver is talkable in free-handedness so that safety for driving during telephone conversation is securable.

⑫ 公開特許公報 (A) 昭61-181738

⑬ Int.Cl.⁴B 60 R 11/02
22/12
H 04 M 1/03

識別記号

府内整理番号

⑬ 公開 昭和61年(1986)8月14日

7443-3D
8510-3D
7608-5K

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 車載用通信機の送受話装置

⑮ 特願 昭60-21537

⑯ 出願 昭60(1985)2月6日

⑰ 発明者 杉林 信夫 神奈川県高座郡寒川町小谷753番地 東洋通信機株式会社
内

⑱ 出願人 東洋通信機株式会社 神奈川県高座郡寒川町小谷753番地

明細書

1. 発明の名称

車載用通信機の送受話装置

2. 特許請求の範囲

(1) 車輛のダッシュボード等に取付けた通信機の少なくとも送話用マイクロホンを運転者或は他の搭乗者の保護用安全ベルトの所要位置に取付けると共に、該安全ベルトに埋込むか縫み込む如く安全ベルトと一体化したケーブルを介して前記マイクロホンと前記通信機とを接続したことを特徴とする車載用通信機の送受話装置。

(2) 前記通信機の受話用スピーカを前記車輛の運転席或は他の座席の背当て上端部又はヘッドレストに装着したことを特徴とする特許請求の範囲1記載の車載用通信機の送受話装置。

3. 発明の詳細を説明

(産業上の利用分野)

本発明は通信機の送受話装置、特に車輛等に搭載した通信機の送受話装置の取付位置に関するものである。

る。

(従来技術)

近年、自動車等の車輛には無線通信機が搭載され移動中の通信手段として広く用いられている。

このようなものとしては例えば公衆通信回線に接続可能な自動車電話システム、輸送トラック等間の通信に便宜をはかったMCAシステム(マルチ・チャンネル・アクセス・システム)或はレジャー用としてのパーソナル無線システム等が挙げられる。

従来これら車載用通信機の送受話装置としては、第2図(a)に示す如く送話器及び受話器が一体となった600型ハンドセット又は同図(b)に示す如く通信機本体に内蔵したスピーカを受話器とし外部から、プレス・スイッチを付加したハンドマイクを接続するのが一般的であった。

しかしながら、上述したような従来の送受話装置は通信に際しハンドセット又はハンドマイクを手に持して操作する必要があるため、車輛

の運転者がこれを行う場合は非常に操作しづらいのみならず右又は左手一方が束縛され安全運転上好ましくないものであった。

これらの対応策としては、例えばヘッドホンの所要部から頭前面部にアームを突出しその先端部にマイクロホンを取付けた所謂ヘッド・セットを装着する方法、或は襟元に小型マイクを装着する方法等が一部採用されているが車輛乗降のたびに都度これら装置を着脱する煩しさを伴うばかりでなく、これら装置と通信機とを接続するケーブルの存在は運転の妨げとなる恐れすらある。

斯かる不具合を解決するために電波又は光等を利用して上述のヘッド・セット或は襟元マイクと通信機との間をワイヤレス化することも考えられるが装置が複雑高価となるのみならず混信の増加及びS/N低下の原因となりかねない。

(発明の目的)

本発明は上述の如き事情に鑑みてなされたものであって、非常に簡便な方法によって車輛塔

車1図は本発明の一実施例を示す模式図である。

同図に於いて1は車輛に搭載した通信機本体であって、車輛のダッシュボード或はトランク等所要部に収納され別途設けた制御器2をケーブル3によって接続し、該制御器2はダイヤル制御部等を収納した制御器本体4と送受話装置を備えた上述の600型ハンド・セット5及びこれら両者を接続するカール・コード6とから構成され、これは前記自動車電話装置がとる一般的な構成であって、通話に際してオペレータは前記600型ハンド・セット5を手に持つてそのマイクロホン部7とスピーカ部8とを夫々口と耳に近付けて通話をを行うため、操作の煩雑さ及び安全運転上の問題等を伴うものであることを前述の通りである。

そこで本発明では新たに以下のものを付加する。

即ち、運転座席9に装備された安全ベルト10の所要部に小型マイクロホン11を装着すると

戦用通信機の送受話装置の操作をハンドフリーとしその煩雑さを解消すると共に安全運転の妨げとならない通信機の送受話装置を提供することを目的とする。

(発明の概要)

本発明は上述の目的を達成するために次の如き構成をとる。

即ち、前記送話用マイクロホンを車輛の座席に装備された安全ベルトの所要位置、例えば該安全ベルトを装着した際通信機送話者の胸元に位置する部分に取付けると共に該マイクロホンと前記通信機とを接続する導線ケーブルは前記安全ベルト中に編み込むか或は埋込む等して両者を一体化する如く構成する。

又、受話用スピーカを座席の背当て上端部或はヘッド・レストの内部又は表面に装着するよう夫々送受話装置を構成する。

(発明の実施例)

以下本発明を図面に示した実施例に基づいて詳細に説明する。

共に該マイクロホン11と前記通信機本体1とをその一部を前記安全ベルトに編み込むか又は埋込む等して一体化したケーブル12によって接続する。

更に、受話用スピーカ13を前記運転座席の9の背当部14の上端部即ち、運転者が着席した際にその肩口付近であり、かつ運転者の体によって覆われない位置に取付けこれと前記通信機本体1とは前記マイクロホン11と同様ケーブル15によって接続するよう構成する。

又、前記制御器2には該制御器に本来付いている600型ハンド・セット5と本発明に於いて付加した前記マイクロホン11及びスピーカ13とを使い分けるための送受話装置選択スイッチと、前記制御器2に600型ハンド・セット5を置いたままの状態でフックオフにするためのフックオフスイッチ及びそのための機能を付加しておく。

このように構成した自動車電話装置を使用するにあたっては、通常前記送受話装置選択スイ

ンチを600型ハンド・セットに切替えておき、從来と同様該600型ハンド・セットを用いて通話を行うが、運転者が着席し前記シートベルトを装着した場合は前記送受話装置選択スイッチをシートベルト ~~上~~ に付したマイクロホン及び座席9に取付けたスピーカ13側に切替れば通話にあたってオペレータは前記オフックスイッチ及び必要に応じたダイヤリング操作を行なうのみで済み從来の如く通話中前記600型ハンドセットを手によって保持する必要がなく、することなく前記安全ベルトに付したマイクロホン11と背当てのスピーカ13とによって通話をすることができる。

尚、上述の実施例では本発明に基づいた送受話装置の他に從来の600型ハンド・セットを併設した場合を述べたがこれに限らずする必要はなく本発明による送受話装置のみを装備したものであってもよいことは自明である。

尚更に、本発明は上述の実施例の如く複信方式を採用した自動車電話システム以外にもブレ

トホンを又受話用スピーカをオペレータの耳に最も近い座席の背当て上端部又はヘッド・レストに取付けると共に夫々と通信機本体とを接続するケーブルを前記安全ベルト及び座席と一緒に取付けるように構成しあつこれらマイクロホンとスピーカとを使用して通話を行なわしめるよう機能せるものであるから、通話のために特に大きな操作を必要とせず從って安全運転を妨げることがないのみならず明瞭度を向上した車載用通信機の送受話装置とするうえで効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す構成配置図、第2図(a)及び(b)は夫々從来の送受話装置である600型ハンドセット及びハンドマイクを示す外観図である。

1 ……通信機本体、 2 ……制御器、
3, 12, 15 ……ケーブル、 4 ……
制御部、 5 ……600型ハンド・セッ
ト、 6 ……カール・コード、

ストーク方式に於いても適用可能であつて、この場合はプレススイッチを例えればハンドルの一部又はギヤのチェンジレバー等の所要部に取付けておけばよい。

又本発明に於いて付加したマイクロホン11及びスピーカ13の位置は上述の例に限定されず、安全ベルトを装着した際オペレータが送話のために不自然な姿勢をとらずに済むよう位置に取付ければよく、例えば前記スピーカの他の取付場所としてはヘッド・レスト(頭当て)の横側が適当であろう。更に該マイクロホン及びスピーカと前記通信機本体1とを接続するケーブルはこれらを取付ける安全ベルトの構成に応じて適宜対応できるようにフラット・ケーブル或はシート・ケーブルの如く偏平なものとすれば便利である。

(発明の効果)

本発明は以上説明したように車輛搭載用通信機の送受信装置として、現在ほとんどの車輛に装備された安全ベルトの所要部に付したマイク

9 ……運転座席、 10 ……安全ベルト、
11 ……マイクロホン、 13 ……スピ
ーカ、 14 ……座席の背当て。

特許出願人 東洋通信機株式会社

